

令和5年度第2回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和6年1月18日（木） 午後3時30分～午後5時
場 所	伊勢市役所本庁舎東館4階 4－3会議室
出席委員	中條、秋山、花田、中北、濱口、中西、竹内、山本、竹中、下野、黒宮 北川、中廣、前田（弓）、前田（晃）、大井戸
事 務 局	健康福祉部 ・健康福祉部次長 辻村 ・子育て応援課 課長 西川、子育て応援係長 畑、 こども育成係長 福田、山本、小岸 ・保育課 課長 堀川、課長補佐兼管理係長 濱地 ・福祉総合支援センター 副参事 坂本 ・健康課 課長 谷、母子保健係長 中川 ・生活支援課 課長 濱口 ・こども発達支援室 室長 樋口 教育委員会事務局 ・教育総務課 課長 前村、総務係長 谷本、齊藤 ・学校教育課 指導主事 北村 ・社会教育課 課長 沖塚
議 題	(1) 第3期伊勢市子ども・子育て支援事業計画策定ニーズの調査票について (2) その他

- ・事務局より開会挨拶、委員・事務局紹介、資料確認、諮問

【事務局より】

議題（１）について説明（資料１-１、資料１-２）

（「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す）

- P27設問（幼★31 小★18）について、選択肢８の「ファミリー・サポート・センター」自体がこどもを預かる場所ではないため、修正をお願いしたい。

→国の設問等を確認しまして、もう一度検討・修正させていただきたい。

（委）地域によってファミリー・サポート・センターの役割が異なる可能性がある。

- P25設問（幼29 小16）について、「ファミリー・サポート・センター」が選択肢になく、個別に設問を設けているのはなぜか。

→回答の選択肢によっては市で対応できることもあるため、今後の需要、現在の利用状況等を踏まえて個別に設問を設けている。

- P9設問（幼★12-2）について、選択肢２の「幼稚園の預かり保育以外の事業・サービス」についてどのようなものを想定しているか。

→認可外の事業所及び一時預かり事業を想定している。

（委）クローズドクエスチョン形式の選択肢は可能か。幼稚園の預かり保育以外の事業・サービスのイメージがわきにくいのではないか。

→国の設問等を改めて確認ししてもう一度検討・修正させていただきたい。

- P18設問（幼23-3 小12-3）について、病児・病後児保育における選択肢１「保育所」との併設の要望は高いが、施設基準のハードルが高く、実現は難しい。現に第２期の調査結果では要望は高いが実現できていない。検討の結果、実現可能性がないのであれば設問から外すことも視野に入れるべき。ただし、第４・５期のために方向性を定めるということであれば残す必要はある。

→前回も調査を行っているが、ニーズの把握として設問を残したい。

（委）今後を想定したニーズの把握は重要であるが、ニーズに応えるためのニーズ調査であるため、形骸化しないようにしていただきたい。

- 回答方法について、オンラインでは、どのような入力画面を想定しているか。一問一答形式で進んだ場合、回答者が設問に答えるために、回答済みの設問に戻るといったことは必要がないか。

→委託業者が現時点で決まっていないため、フォームについて、話し合いができていない。選択肢を選んだ結果、特定の設問が関連して表示されるといったものを想定している。

(委) 他の市区町村のアンケートでは、回答しづらいフォーマットもあり、途中で回答を放棄されてしまう可能性がある。そのため、フォーマットについては、時間をかけて作成する必要がある。

→進捗状況が可視化できるフォームが望ましい。また、回答完了後に何らかの特典があれば、より回答してもらいやすくなる。回答しやすい内容で、いただいた意見が計画策定に活用できるように回収率も含めて意識しながら精査していく。

●オンラインの形式であれば、回答のため、QRコードを読み取ることが想定されるが、そのページにはどのような文言を載せる予定か。第2期の調査の結果、実現したものがあれば紹介の一例となる。自分たちがニーズを示すことによって、変わるという思いを持ってもらうことを意識する必要がある。

→希望が持てる市であることを彷彿とさせるイラストや積極的に回答したくなる掲示を考えたい。

●P13設問(幼新15)について、年齢別に設問を分けた方が、より今後の施策に反映できるのではないか。

→公立施設の在り方の検討にあたり、どれほどの規模の施設を求められているかを問う設問であるが、示し方をより具体的にし、意見のとおり、年齢別に修正したい。また、P13設問(幼新16)についても、同様に3歳～5歳をそれぞれ分けて修正する。

●P2設問(幼★6 小★6)について、同じ市内であっても、地域の特性があるため、ニーズは若干異なる可能性がある。その状況を考慮した集計及びデータ処理の構成をどのように活用していくか。

→この設問からお住まいの地区を聞かせてもらい、特に、保育所や放課後児童クラブのニーズが出る地区の場合は、その地区の各施設の見込み量等目標に繋げていきたい。

●作業スケジュールでは、2月から実施の予定とあり、非常にタイトなスケジュールであることが予想されるが、情報発信およびチラシ配布はどのように行うか。また、ニーズ調査の設問数をさらに絞れるとよい。

→委託業者が現時点で決まっていないが、QRコード付きの紙片面一枚で配布予定である。なお、第2期の回答期間は約16日であった。第3期は2月末から3月中旬あたりの期間を目処にご回答していただく。

(委) 回答率はどのくらいを目標としているか。

→回答率については3割を目標としている。また、分析等については委託業者に依頼する予定である。

(委) 回答率3割は決して低くないハードルであるし、回答の特典については、コスト等

が課題となる。第2期の結果も活用し、回答するメリットを示せると、なお良い。また、冒頭で、複数こどもがいる場合、年齢が一番低いこどもを回答の基準に指定することで、本計画は長期間にわたるものであるため、年齢が低いこどものニーズを調査し、回答の基準となったこどもが成長する段階でニーズを満たしていく仕様は、本アンケートの良い点である。

- P3設問(幼8 小8)について、選択肢5「保育所（園）または小学校」の設問自体が複数回答のため、保育所（園）と小学校の設問を分けてもよいのではないか。

→第2期の設問をそのまま使用しているため、設問を分ける形で修正していく。

【事務局より】

議題（2）について説明、次回開催予定、議事録公開の説明

- コロナ禍が少し収まりを見せ、情勢が変わる中、今後、様々なニーズが出ることが予想される。そのため、伊勢市の子育てについて、こども大綱も取り入れつつ、伊勢市の核・柱となるものをもとに多様なニーズに応えていってほしい。また、こどもや若者のニーズ・意見等を吸い上げる場として、こども議会等の機会を設けることも大切である。例えば、子育てしやすいまちや自分たちが大人になっても残りたいと思えるまちについて、貴重な意見が聞ける。子ども・子育て会議とともに様々な試みを進めていきたい。